令和8年度入学生用カリキュラムマップ

【スポーツマネジメント学科】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）							
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ／ ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1．多様化・複雑化する社会を理解する力	2．“生きること”につながる専門性	3．自他を尊重する姿勢	4．失敗を恐れず挑戦する姿勢	5．逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6．論理的に考え伝える力	7．新たな価値を創造する力	8．多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
					1	2	3	4	5	6	7	8
26USMA1001	初期演習Ⅰ	1	本学で修得すべきことは何かを理解し、自主的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。このため、本学の「立学の精神」および人材育成方針「MUKOGAWA COMPASS」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。さらに、MUKOGAWA COMPASSに掲げられた「自ら考え、動く」ための力を培い、女性として有為な社会人となるために、それぞれの学部学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力の修得の必要性を理解し、各自のキャリアデザインを自ら構築する。	大学の修学の基礎となる単位制を理解し、適切な履修計画に沿って修学する主体性、考える力を身につけ、人材育成方針「MUKOGAWA COMPASS」と所属学科の３つのポリシーに基づく専門教育の概要を把握し、自らのキャリアデザインを組み立てる力を身につける。また、良識ある社会人となるための社会人基礎力の必要性を理解し、その基盤となる十分なコミュニケーション能力を培い、基本的な社会ルールを理解し、本学学生としての誇りと自覚を身につける。さらに、学習・研究を進める上での倫理の基礎となる情報の取り扱いに関する知識を身につける。	◎		○		○			○
26USMA1002	初期演習Ⅱ（スポーツマネジメント）	1	「初期演習Ⅱ（スポーツマネジメント）」の目的は、初年次学生が、健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科の学生としての誇りと自覚を持ち、MUKOGAWA COMPASSに掲げられた「自ら考え、動く」ための力を培い、学部・学科の教育目標を達成するように導くことである。	スポーツマネジメント学科の専門教育への円滑な導入を目的に、多様なスポーツマネジメント領域の現状をめぐるエビデンスをもとに諸領域の現状を理解し、今後の課題についてディスカッションを行い、卒業後のキャリアを熟考する。				◎		○	○	
26USMA1003	健康・スポーツ科学論	1	健康・スポーツに関する科学的アプローチは、研究手法によって細分化され多岐にわたる。スポーツ科学分野では、主として自然科学領域に焦点をあて、スポーツの科学的理解を中心に進める。一方、健康科学分野では、健康に関連する諸問題について、歴史的な背景を理解し、今後の健康の維持・増進に対する展望について考えさせることをねらいとする。	スポーツ科学分野では、スポーツパフォーマンス発揮のために様々な身体機能や種々の要因が関与しており、それぞれの関わりをエビデンスに基づき学修するとともに、実際のスポーツ場面に活用していくための基礎的知識を理解することを目標とする。 健康科学分野では、健康の概念を理解するとともに自身の健康観をもってもらいたい。そのうえで、わが国の「国民健康づくり対策」の課題解決に何が必要なのかを考え、そのために健康・スポーツ系の知識がどのような場面で活かせるのかを理解する。	◎	○						

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目） ◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ／ ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1．多様化・複雑化する社会を理解する力	2．“生きること”につながる専門性	3．自他を尊重する姿勢	4．失敗を恐れず挑戦する姿勢	5．逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6．論理的に考え伝える力	7．新たな価値を創造する力	8．多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
					1	2	3	4	5	6	7	8
26USMA1004	スポーツの文化・歴史	1	本科目は次の３点によって、受講生自らが「スポーツのこれまでとこれからを考える」ことを目的とする。 ①スポーツの起源、発展・変容を学ぶ。 ②スポーツと文化の意味を理解する。 ③スポーツの文化的構造について考察する。 あわせて、本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	本科目の履修によって、スポーツ文化を総合的に理解し、問題解決に取り組むことのできる能力をそなえた「考えるスポーツ人」になることを目指す。 そのためには、スポーツに関わる基礎的な知識を基にして、自ら学ぶという姿勢のもとに習得された幅広い知識および分析視点によってスポーツにかかわるものごと全般に対し、批判的な思考を働かせて分析できるようならねばならない。これは、「ただ否定（肯定）する」のではなく、「本当にそうなのだろうか？」と疑問を投げかけ、適切に取捨選択した知識や情報を根拠として、自らで判断することである。 よって、本科目における到達目標を「スポーツに関わる基礎的な知識の習得」および「スポーツについて、固定観念や固有の価値観にとらわれることなく、多様な視点から多面的に考えることができるようになる」ことに置く。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎	○	○					
26USMA1005	情報リテラシー	1	大学教育に適応し、安全で適切な情報活用ができるための基礎的な情報リテラシーを身につける。コンピュータやネットワークの知識、情報モラルの知識と実践力を育成するとともにオフィスソフトの活用をもとにしたレポート作成の基礎的な技能を確実に習得する。	本学のシステムやオンラインサービスを知り、使いこなすことができる。 基礎的なコンピュータやネットワークに関する知識、情報モラルに関する知識をもち、場面に応じて安全にコンピュータやネットワークを活用することができる。 レポートを作成するために必要なソフトの活用技能を習得し、課題に応じた簡単なレポート作成ができる。	◎					○		
26USMA1006	基礎英語Ⅰ	1	①リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングを総合的に学習しながら、実践的な英語力を獲得する。 ②語学留学や海外旅行する際のコミュニケーションに役立つ力を養う。	学生がコミュニケーションに関する基本的な英語力を向上させる。	◎							
26USMA1007	基礎英語Ⅱ	1	①リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングを総合的に学習しながら、実践的な英語力を獲得する。 ②語学留学や海外旅行する際のコミュニケーションに役立つ力を養う。	前期に開講した「基礎英語Ⅰ」で身につけた、基本的な英語力を応用し、さまざまな状況で、英語によるコミュニケーションができるようになることを目標とする。	◎							
26USMA2008	Oral Communication Ⅰ	2	「英文法はある程度わかっていても、いざとなると英語が話せない」という人は多い。本授業では、英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。	英語の基礎文法などを復習しながら、インタラクティブな授業を通して基本的な会話ができるようになることを目標とする。	◎							

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目） ◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ／ ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1．多様化・複雑化する社会を理解する力	2．“生きること”につながる専門性	3．自他を尊重する姿勢	4．失敗を恐れず挑戦する姿勢	5．逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6．論理的に考え伝える力	7．新たな価値を創造する力	8．多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
					1	2	3	4	5	6	7	8
26USMA2009	Oral Communication Ⅱ	2	「英文法はある程度わかっていても、いざとなると英語が話せない」という人は多い。本授業では、英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。	前期に開講した「Oral Communication Ⅰ」で学習した内容を踏まえ、英語の基礎文法や語彙などを復習しながら、様々な場面での基本的な会話ができるようになることを目標とする。	◎							
26USMB1101	スポーツビジネス最前線	1	スポーツビジネスは日々進化している。既存のスポーツビジネス業界、あるいは異なる業種との連携の中で新しいスポーツビジネスが生まれている。本科目は、さまざまな健康・スポーツ関連企業からゲストを招き、オムニバス形式の講義を通して、各企業の最新情報やロールモデルについて学ぶことを目的とする。	スポーツビジネスの最前線で活躍する実践者の講義をもとに、ディスカッションをする中で、スポーツをビジネスにするとはどういうことなのかを理解する。さらに、社会を変革・進化させるビジネスという人間の営みについて、自分なりに思いを具体的にイメージし、説明できるようになること、および本学科での今後の学びの方向性や、キャリア形成について展望を描けるようになることが目標である。	◎	○					○	
26USMB1102	スポーツ産業と政策	1	この講義では、スポーツビジネスで活躍するために必要なスポーツ産業とスポーツ政策の知識を身につけることを目指す。より具体的には、スポーツ産業を構成する市場領域の種類（スポーツ用品産業、スポーツ施設・空間産業など）および各市場の特性や動向について学習する。また、スポーツ基本法やスポーツ基本計画など、スポーツの振興や産業化に関わる重要な法律や政策計画・事業の背景や歴史的変遷、体系、諸外国の動向について学ぶ。	この講義では、①スポーツ産業の構造を説明できるようになる、②スポーツ振興や産業化に関わる重要な法律・政策の性格を説明できるようになる、③個別のスポーツ産業領域への関心を深め、その領域の特性や最新動向・課題を説明できるようになることを到達目標とする。	◎	○				○		
26USMB1103	スポーツビジネス論	1	健康・スポーツビジネスでは、健康・スポーツ関連および女性をターゲットにしたビジネスについて理解し、「女性の起業」についての基礎的知識を得ることを目的とする。	一般社会におけるビジネスおよびマーケティングの基礎を理解し、健康・スポーツ関連のビジネスや女性に関連深いビジネスについて考える力を養う。	◎	○		○				
26USMB1104	スポーツマネジメント論	1	スポーツに内在する多様な価値に実現への期待が高まっている。スポーツマネジメントは、スポーツの教育的価値や経済的価値等、スポーツの持つ多様な価値の実現を志向する組織的営みであり、その合理的な方法論の在り方を検討課題としている。本講義では、生涯スポーツやスポーツビジネスが展開される具体的なスポーツマネジメント領域における経営課題を理解するとともに、人々の生活の豊かさに貢献するスポーツの推進の考え方や合理的なスポーツマネジメントの方法論について検討する。	スポーツマネジメントは、スポーツビジネスに関連した経済的便益を追求する活動だけを追求する営みではない。本講義では、文化としてのスポーツに内在する多様な価値や、人々のスポーツ権を保障するスポーツ政策の現状と課題の把握を前提とする。そしてスポーツマネジメントの目的の公共性や社会的責任の重要性、スポーツの価値を実現するための方法論としてのスポーツ事業と経営過程について構造的に理解ができる。さらに地域スポーツプロモーションや公共・民間スポーツ施設マネジメント、スポーツイベントやトップスポーツクラブ経営等の具体的なスポーツマネジメント領域の課題を理解し、その解決方法について考える資質を身につけることを目標とする。	◎	○	○				○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目） ◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ／ ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1．多様化・複雑化する社会を理解する力	2．“生きること”につながる専門性	3．自他を尊重する姿勢	4．失敗を恐れず挑戦する姿勢	5．逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6．論理的に考え伝える力	7．新たな価値を創造する力	8．多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
					1	2	3	4	5	6	7	8
26USMB2105	スポーツマーケティング論	2	マーケティングとは、個人・市場と組織の目的を満たすための交換関係を生み出すために、アイデアや財やサービスの考案から、価格設定、プロモーション、そして流通に至るまでを計画し、実行するプロセスである。現代におけるスポーツ産業の様々な成功事例からその裏側にあるマーケティング戦略を考察していく。	マーケティング戦略とは何かを理解し、スポーツ産業における企業のマーケティング行動が理解できるようになることを目指す。そして、マーケティングの基本用語や戦略を理解し、顧客の立場から、商品、サービスの企画開発や宣伝、流通、そして価格設定などを考えることができる人材育成を目指す。	○	◎					○	
26USMB2106	スポーツガバナンス論	2	この講義の目的は、スポーツ組織の効果的なガバナンスを構築するために必要な知識と技能を習得することである。スポーツ組織にガバナンスが要請される社会的背景および、ガバナンス機能を発揮する理事会などの役割と効果的な組織の要件について学ぶ。さらに、具体的なスポーツ組織に関する詳細な事例分析をとおして、経営組織におけるリスクマネジメントの技法を身につける。	この講義では、①スポーツ組織におけるガバナンスの主体と機能を説明できるようになる、②リスクマネジメントのプロセスを説明できるようになる、③企業やスポーツ組織の事故事例を分析し、事故の発生原因と有効な対策を論じられるようになることを到達目標とする。	○	◎	○				○	
26USMB3107	スポーツ情報・メディア論	3	eスポーツなど新たなスポーツの登場に加え、デジタルデバイスやプラットフォームの登場により伝統的なマス媒体だけではなく新たなメディアを活用したマーケティングコミュニケーションが行われている。また、スポーツ自体をメディアとして活用する動きも活発になっている。そのようなデジタル時代のスポーツ界における「情報」と「メディア」の基礎をマーケティングコミュニケーションから学ぶ。	情報・メディアに関する基本的な用語を理解する。マーケティングにおけるメディアの位置づけを理解する。スポーツにおけるメディアの歴史や現状、役割について理解する。スポーツ情報におけるメディアの活用や戦略に関する基礎的な知識を身につける。	◎	○				○		
26USMB4108	スポーツイノベーション論	4	スポーツは、跳ぶ、走る、投げる等の特定行為をデフォルメ化した身体活動であり、目的志向性がきわめて高いという性質を有する。したがって、ある目的を達成するための技術体系としてのテクノロジーを活用したイノベーションと親和的である。本講義では、テクノロジーを主要な要素とするスポーツイノベーションの歴史を参照しつつ、「みる」「する」「ささえる」の視点からスポーツイノベーションの現状と展望について講義する。	スポーツにおけるテクノロジーの応用、ブレークスルー、およびスポーツで進化したテクノロジーの転用といった、スポーツとテクノロジーとの多様な関わりを歴史的、社会的、身体的次元で理解することを目指す。また、新規のテクノロジーを含む、種々のイノベーションのタイプに関する知識を身につけて、スポーツビジネスにおける多様なイノベーション現象に対する知識と理解を深めることを目指す。	○	◎		○			○	
26USMB1109	ホスピタリティマネジメント論	1	ホスピタリティとは何か、考え方、要素、顧客対応、接客・接遇技法などについてサービス提供者の視点と享受者の視点から学ぶ。対象者の属性（性別、年齢、参加・来場目的等）や、さまざまなスポーツの場面に応じてホスピタリティがどのように具現化されているのか、実践例を踏まえて探求する。日常生活や希望する職業に必要な、ホスピタリティマインドをベースとしたコミュニケーションスキル（言語・非言語）についての理解を深める。	スポーツの場面におけるホスピタリティのあり方について、対象者の属性やスポーツ活動、スポーツ施設などの特徴を捉えながら多角的に探り、ホスピタリティマネジメントの企画運営をシミュレーションする。	○	○	◎					○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目） ◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ／ ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1．多様化・複雑化する社会を理解する力	2．“生きること”につながる専門性	3．自他を尊重する姿勢	4．失敗を恐れず挑戦する姿勢	5．逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6．論理的に考え伝える力	7．新たな価値を創造する力	8．多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
					1	2	3	4	5	6	7	8
26USMB2110	地域スポーツマネジメント論	2	地域におけるスポーツ推進は、広く人々の生活の豊かさの実現に貢献してきた。本講義では、社会体育、コミュニティスポーツ、生涯スポーツと変遷してきた地域におけるスポーツ振興の経緯やその背景となる考え方や思想を理解するとともに、地域スポーツの振興をめぐる諸施策やマネジメントの現状と課題について理解することを目的とする。さらに近年のスポーツの成長産業化の潮流の中で期待されているスポーツによる地域社会や地域経済の活性化をめぐる施策について、その功罪を批判的に検討する。	戦後の地域スポーツ振興をめぐるスポーツ政策を確認するとともに、その背景にある経済成長とコミュニティ崩壊問題、スポーツをめぐる諸格差などが理解できる。そして地域スポーツマネジメントに必要となる経営資源や各種スポーツ事業について理解を深める。とりわけ現代的な課題となっている総合型地域スポーツクラブ育成政策を題材にしながら、クラブ育成が持つ機能をボランティア論や新たな社会経済システム論から考えるとともに、スポーツによる地域開発やスポーツツーリズム等のコミュニティビジネスの在り方について批判的に考えることができることを目標とする。	○	○					◎	
26USMB2111	スポーツイベントの企画・運営	2	本講義では、学校から自治体、国、国際的に位置づけられる多様なスポーツイベント全般について、その歴史、基礎的な知識、実務を学ぶ。イベントの歴史や成り立ち、現代的なイベントの現状などを学び、「ヒト・モノ・カネ・情報」という経営資源の側面からイベントをマネジメントする知識やスキルを理解する。さらに、スポーツイベントを企画・運営する際に必要な業務内容を身につける。	イベントやスポーツイベントの歴史を理解し、現代的なイベントの分類、イベントが数多く開催される理由、社会における役割を説明できる。スポーツイベント、およびその企画運営の基礎的な用語や考え方、理論を理解し、スポーツイベントを企画、運営する際の基礎的な知識を身につける。JACE（社団法人日本イベント産業振興協会）が認定する「スポーツイベント検定」資格取得に結び付く知識を身につけることを目指す。	◎	○		○				○
26USMB3112	スポーツ施設マネジメント論	3	公共および民間のスポーツ施設の管理運営、屋内外のスポーツ施設において行われるイベントや教室等の具体的なマネジメントについて理解を深める。また、商業スポーツ施設（民間フィットネスクラブ等）の運営管理、公共スポーツ施設の安全対策、公共スポーツ施設のイベント運営、地域スポーツ施設のマーケティング、学校体育施設の運営等の実践的な事例にふれながらスポーツ施設のマネジメントについて学修する。	スポーツ施設の管理運営について基本的な知識や実務を学び、実際のスポーツ施設利用時や運営に携わる際に必要となる知識やスキルを習得する。また、スポーツ活動中およびスポーツ施設の運営管理における安全管理に関する法律、規則を学び、理解を深め、公益財団法人日本スポーツ施設協会が認定する「スポーツ施設管理士」資格取得に結び付く知識を身につけることを目指す。	○	◎		○				○
26USMB3113	トップスポーツ経営論	3	この講義では、プロスポーツ・ビジネスに代表されるトップアスリートやチームを活用したビジネスに求められる知識と技能を養う。国内外におけるプロスポーツの歴史を事例として、スポーツ観戦サービスの歴史やその多様性について理解を深める。そして、多様なステークホルダーとの関係で成立する現代的なスポーツ観戦サービスの生産システム、ならびにスポーツファンの行動特性について学び、スポーツ記事の作成・公表課題を通して、スポーツ情報の物語化というファンマネジメント技法の一つを身につける。	この講義では、①スポーツ観戦に興味がない人に対して、5つの異なるスポーツ観戦の方法を提案できるようになる、②スポーツ観戦サービスの生産に関わる主体を網羅的に説明できるようになる、③アスリートに取材を行いスポーツ記事を作成し公表できるようになることを到達目標とする。	○	◎		○				○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目） ◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ／ ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1．多様化・複雑化する社会を理解する力	2．“生きること”につながる専門性	3．自他を尊重する姿勢	4．失敗を恐れず挑戦する姿勢	5．逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6．論理的に考え伝える力	7．新たな価値を創造する力	8．多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
					1	2	3	4	5	6	7	8
26USMB3114	スポーツ・ヘルスツーリズム論	3	スポーツツーリズムの歴史や概念、現状、事例などを学び、現代社会で展開されているスポーツツーリズムの意義や役割を理解し、説明できる基礎的知識を身につける。また、スポーツツーリズムの国内外の事例を通じて、その現状や課題を理解すること、さらに近接領域である健康をテーマとしたヘルスツーリズムの役割や課題について学修する。	新しいビジネス領域であるスポーツツーリズム、ヘルスツーリズムについて理解を深め、現代社会において注目される背景や理由、推進する上での課題などを理解する。また国内外のヘルス・スポーツツーリズムに取り組む事例を収集、学修することで、スポーツツーリストやヘルスツーリストと呼ばれる参加者（消費者）の行動や動機、選好に対する理解を深めることを目指す。		○				◎		○
26USMB4115	ヘルスケアマネジメント論	4	ヘルスケアの概念・理論を学ぶとともにヘルスケアの基本的知識を修得する。加えて、対象者の健康情報に基づいたヘルスケアサービスを促すマネジメントについて学習する。また、公的保険、保険外サービスを理解し、ヘルケアビジネスを展望する能力を身につける。	ヘルスケアの概念・理論を理解した上で、対象となる小児から超高齢者までの個人の健康情報に基づいたヘルケアマネジメントを実践できるための基礎力を養うことを目標とする。		◎				○	○	
26USMB1116	アカウンティングⅠ	1	スポーツ組織の維持・発展のためには簿記・会計に関する知識が不可欠である。この講義では、基本的な簿記・会計の知識を身につけることを目的とする。まずはプロスポーツ組織の多くにみられる株式会社を取り上げ、株式会社の貸借対照表や損益計算書等の会計情報の作成や開示の方法を理解する。ついで、作成した会計情報を加工して、定量的な経営データの初歩的な分析手法について講義する。	プロスポーツ組織に見られる株式会社会計に関する基本的な知識、すなわち、複式簿記の原理から始まり、貸借対照表と損益計算書の構造や開示方法に関する基本的な知識を身につける。さらに、貸借対照表や損益計算書を加工して、成長性・安定性・収益性に関わる定量的な経営データの初歩的な分析方法を身につける。	◎	○						
26USMB1117	アカウンティングⅡ	1	「アカウンティングⅠ」で学んだ内容を展開し、貸借対照表や損益計算書に加え、キャッシュフロー計算書の作成や活用方法について学ぶ。貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書のいわゆる財務三表を用いて、より進んだ定量的な経営データの分析手法を身につけることが目的である。また、公益法人会計を取り上げ、株式会社以外の形態をとるスポーツ組織の会計の仕組みについても講義する。	貸借対照表と損益計算書に関するより高度な知識、およびキャシュフロー計算書の作成方法と見方についての知識と技法を身につける。また、損益分岐点分析のようなより進んだ経営分析の手法を身につける。さらに、株式会社以外の組織形態をとるスポーツ組織の会計（公益法人会計等）に関する知識を身につける。以上より、開示されたデータを用いて、種々のスポーツ組織の定量的分析の手法を身につける。	○	◎						
26USMB2118	実務技能対策論	2	実務において必要なスキルを学び、ビジネス系検定の取得を目指した講義である。数あるビジネス系の検定の中でも、ホスピタリティやサービスマインドなどに関するサービス接遇検定の３級取得を目指す。	全講義終了後、検定を受けに行き、目標の級数を取得する。学生時代にサービス接遇検定３級を取得し、就職活動への準備とアドバンテージとする。	○					◎		○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目） ◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ／ ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1．多様化・複雑化する社会を理解する力	2．“生きること”につながる専門性	3．自他を尊重する姿勢	4．失敗を恐れず挑戦する姿勢	5．逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6．論理的に考え伝える力	7．新たな価値を創造する力	8．多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
					1	2	3	4	5	6	7	8
26USMB2119	経営組織論	2	現代社会には多様な組織が存在し、人々は企業のような営利組織のみならず、NPO法人等に代表される非営利組織との取引の中で生活を営んでいる。本講義では、「組織の成り立ち」「組織の構造」「組織の運営」「組織と人」といった側面から、基礎的な組織論を理解するとともに、スポーツ産業を構成する諸組織の事例とその運営を学ぶ。	組織と人材に関する基礎的概念および用語や理論の習得を通じて、組織理論の多様性とその内容を理解することが、本講義の目的である。 ①組織内での人的な要素の複雑性を理解する上で必要となる組織論の基礎知識を身につけることができる。②経営組織論の基本的な用語と知識を説明することができる。③人的資源管理に関わる諸概念と理論を理解することができる。④組織に関わる心理学をもとに労働施策について改善提案を行うことができる。⑤組織における協働の重要性を理解することができる。	○	◎						○
26USMB2120	ファイナンシャルマネジメント	2	組織の維持・発展には、経営資源としての資金の調達と運用に関する知識が不可欠である。本講義では、金融市場に関する基礎知識やファイナンスの基礎理論をふまえながら、資金の調達と運用に関するマネジメントの手法を学ぶことが目的である。あわせて、実際のスポーツ組織の事例に拠りながら、資金の調達と運用面における組織的課題や対応について解説する。	金融市場や企業金融、およびファイナンス理論に関する基礎的な知識を身につける。また、それらを踏まえて、資金の調達と運用に関する基礎的なマネジメント手法を身につける。あわせて、過去および現在の、内外のスポーツ組織におけるファイナンスの事例を読み解き、資金の調達・運用に関わる組織的課題を発見し、対応する能力を身につける。	◎	○			○			
26USMB3121	消費者行動論	3	現代における消費者の多様性を理解し、その消費者行動を分析していく。より実践的な分析のために、経営学の戦略的アプローチだけではなく、心理学的なアプローチから様々なケーススタディを学ぶ。特に、広告や販売に関わる心理学的側面を理解し、実務的に応用できる力を身につける。	消費者行動の分析に関する理論や心理学的アプローチについて、自分の言葉で説明できる。また、学習した理論を使用し、消費者心理を多面的に分析できるようになる。消費者の認知・態度・心理について分析し、戦略的な思考や考察ができる。	○	◎				○		
26USMB3122	販売管理論	3	販売士検定の取得を根幹に置いた講義である。商業、流通、マーケティングなど、取得に必要な知識とテクニックを学び、販売士3級の取得を目指す。	全講義終了後、検定を受けに行き、目標の級数を取得する。学生時代に販売士を取得し、就職活動への準備とアドバンテージとする。	◎	○						○
26USMB3123	マーチャンダイジング	3	マーチャンダイジングとは、商品計画・商品化計画の意味である。消費者に商品を購買させるために、商品の企画・開発や調達、商品構成の決定、販売方法やサービスの立案、価格設定などを、戦略的に行う活動のことである。本講義では、消費者の視点から消費者行動の理解を進めていく。実際に消費者が小売店舗内でどのように行動しているのか、また、より多くの売り上げのために小売店がどのような戦略を用いているのかを学ぶ。	マーチャンダイジングでは、①適正な商品、②適正な時期、③適正な場所、④適正な数量、⑤適正な価格の5点が売上向上につながることを理解する。さらに、1）小売店内での消費者の購買行動と、それを導くための店舗側の方策を理解する。2）商品知識、プロダクトサイクル等を理解する。3）戦略的商品計画、POSシステム等を理解する。	○	◎		○				

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目） ◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ／ ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1．多様化・複雑化する社会を理解する力	2．“生きること”につながる専門性	3．自他を尊重する姿勢	4．失敗を恐れず挑戦する姿勢	5．逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6．論理的に考え伝える力	7．新たな価値を創造する力	8．多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
					1	2	3	4	5	6	7	8
26USMB4124	ﾋｭｰﾏﾝﾘｿｰｽﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	4	スポーツビジネスの経営管理者として人的資源を効果的に管理するための知識・技能を学ぶ。この分野は人的資源管理、あるいは人材マネジメントと呼ばれ、経営組織における採用・異動、教育訓練、評価・考課、昇進・昇格、賃金・福利厚生・退職金などの管理に関わる事柄が検討されている。これら人的資源管理の実践的な考え方をスポーツ組織の事例を参考にしながら学習する。特に、スポーツビジネスにおける重要課題である採用および評価の仕組みづくりについて、実践的に学ぶ。	この講義では、①人的資源管理論の基礎概念（欲求階層説、採用・異動、評価・考課など）を説明できるようになる、②採用面接を行い人材を選抜できるようになる、③人事考課シートを作成できるようになることを到達目標とする。	○	◎				○		
26USMB2125	ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学内演習	2	多様なスポーツマネジメント領域の実践や女性の起業の事例を取り上げ、その特徴や課題に関する議論をとおして、実務領域で活躍できる資質を身につける。さらに、学内の様々な部署とコラボレーションし、スポーツマネジメントの基礎とスポーツビジネスにおける実践を学ぶ。	多様化するスポーツマネジメントの領域特性と経営課題を理解する。具体的な実践事例をめぐる経営課題について議論し、構造的に整理し発表する能力を養成する。学内関連部署と連携し、スポーツマネジメントの実践能力を身につける。						○	○	◎
26USMB3126	ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学外実習	3	外部企業や団体と協働し、課題解決型の実習をとおして、スポーツマネジメントの基礎とスポーツビジネスにおける実務や、実践的な企業システムにおけるオペレーションを学ぶ。さらに「女性の起業」についても必要な知識と実践力を身につける。	外部企業や団体と協働した実習をとおして、実社会の成り立ちや、スポーツビジネスの最前線を理解する。課題解決能力を身につけるとともに卒業後に向けたキャリア形成を促す。					◎	○	◎	○
26USMB3127	専　門　英　語　A	3	グローバル化するスポーツマネジメント分野において活躍するための語学（英語）力を身につけることを目的とする。	スポーツマネジメントに関する実用的英語表現を学び、リスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの技能を磨く。特に英語圏における、スポーツビジネス・スポーツガバナンス・トップスポーツマネジメントを題材に取り上げる。	◎	○						○
26USMB3128	専　門　英　語　B	3	グローバル化するスポーツマネジメント分野において活躍するための語学（英語）力を身につけることを目的とする。	スポーツマネジメントに関する実用的英語表現を学び、リスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの技能を磨く。特に英語圏における、スポーツファシリティマネジメント・スポーツツーリズム・スポーツイベントを題材に取り上げる。	◎	○						○
26USMB1129	海外のスポーツビジネス研究	1	グローバル化するスポーツビジネスについて国際的な理解と感覚を身につける実習であり、米国ワシントン州スポ―ケン市に位置する本学海外分校を拠点とし、現地の企業や大学および地域の協力を得ながら、英語学習と米国のスポーツビジネスについて学ぶ。	語学力（英語）を醸成し、スポーツビジネス先進国である米国の歴史と現状について理解を深めるとともに、現地の企業や大学および地域社会と連携し、スポーツビジネスに関わるグローバル人材としての知識と感性を身につける。				○	◎		○	◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目） ◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ／ ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1．多様化・複雑化する社会を理解する力	2．“生きること”につながる専門性	3．自他を尊重する姿勢	4．失敗を恐れず挑戦する姿勢	5．逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6．論理的に考え伝える力	7．新たな価値を創造する力	8．多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
					1	2	3	4	5	6	7	8
26USMB1201	スポーツ心理学	1	スポーツと心、スポーツにおける動機づけ、コーチングの心理、メンタルマネジメント（メンタルトレーニング、プレッシャー、あがり、スランプの対処法）、指導者のメンタルマネジメント等の心理面における基礎理論を理解する。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	獲得した知識・技能・指導法を総合的に活用しながら、将来のスポーツ指導にそれらを適用し、実践現場における問題解決能力を身につけること、また、心理的スキル向上を図るためには、必須である「動機づけの方法」「性格特性や個人差などに応じた指導法」「メンタルマネジメント」を理解し、スポーツ現場で応用できる資質を養うことを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎	○		○	○			
26USMB2202	スポーツ栄養学	2	アスリートとして体力の維持・競技成績の向上のために、さらに将来の健康づくりの指導者として生活習慣病の予防・改善を指導するために、スポーツに特化した専門的栄養学を習得する。	栄養・食事に関する基本的な知識を身につけ、さらに、選手において特別に注意すべき栄養学上のポイントについて理解する。	◎	○			○		○	
26USMB1203	運動生理学	1	先進国社会では自動化、省力化、電気化による身体活動量の低下が、人間の健康に大きな影響をおよぼし社会問題となっている。そこで本科目では運動やスポーツのもたらす身体活動が身体諸機能にどのような生理的変化をもたらすか学習する。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。また、スポーツ指導者として、健康の維持・増進を目的としたインストラクターとしての専門的知識および技能等を修得することを目的とする。	運動生理学の基礎的な理論を理解し身体活動やトレーニングによる身体諸機能の変化について学ぶ。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。保健体育教授者、あるいはスポーツ指導者として、健康の維持・増進を目的としたインストラクターとしての指導実践において、対象者の個々の体力の違い、年齢別、性差等の諸問題を主体的に考え、取り組むことができる専門的知識を修得することを目標とする。	◎	○			○		○	
26USMB2204	スポーツ医学	2	内科的分野では、運動開始前および運動中の自覚症状、他覚徴候から運動中止を判定する方法に関し理解する。スポーツと内科的障害、疾患を理解する。特殊環境下の運動、熱中症、高山病、低体温症、凍傷、潜水による障害、日光障害など実習に役立つことを学ぶ。学校、各種スポーツ活動時、教育者、指導者として必要なスポーツ医学の知識を体得することを目的とする。 外科的分野では、健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医科学的な分野（特に外科的分野）についての知識を身につける。	内科的分野では、運動中に起こりやすい、呼吸・循環器、熱中症、さらに生活習慣病などを理解し、子どもから大人までの運動指導が可能になる。スキー実習（低体温症など）、キャンプ実習（高山病など）、マリン実習（潜水病など）で事故の発生を予防する。また貧血、オーバートレーニングを理解し選手、指導者として活躍できるようになる。外科的分野では、スポーツ外傷、障害を理解し医師を含めてパラメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語をもってコミュニケーションができることを目標とする。	◎	○			○		○	
26USMB1205	スポーツ運動学	1	スポーツ指導現場で必要な運動の見方・考え方を学ばせることにより、運動に関する理解を深めさせ、スキルの獲得とその獲得過程に関する質的評価ができるようにする。また、練習計画の立案ができるようにさせる。本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	スポーツを観察する方法を理解し、指導時に活用できるようになる。また、運動の質に関する理解が深まり、その良否に関しても適切な判断ができるようになる。運動が上手になる過程について理解し、適切な指導ができるようになる。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎	○		○		○		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目） ◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ／ ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1．多様化・複雑化する社会を理解する力	2．“生きること”につながる専門性	3．自他を尊重する姿勢	4．失敗を恐れず挑戦する姿勢	5．逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6．論理的に考え伝える力	7．新たな価値を創造する力	8．多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
					1	2	3	4	5	6	7	8
26USMB1206	体　育　原　理	1	本科目の目的は「体育・スポーツとは何か」「なぜ体育・スポーツなのか」「体育・スポーツで何ができるのか」を考えることにある。「体育」について、同義語のように混同してとらえられる傾向にある「スポーツ」との相違点を明確にし、その意味と価値を学ぶことにより、「体育」と「スポーツ」の現代社会における存在理由および意義について哲学的に探求する。加えて、「体育」「スポーツ」をとりまく現代的な問題を取り上げ、根本的な問いの設定と哲学・倫理学的方法により、それらの問題について読み解いてゆく。あわせて、本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	「体育」と「スポーツ」についての課題を発見し、多面的な思考のアプローチによって自らの考えを導き、それを論理立てて説明できるようになることを目指す。具体的には次のようなスキル獲得を目標とする。 ・保健体育科教員、スポーツコーチとして求められる基礎的な知識や考え方の習得 ・社会の変化に対応できる柔軟な発想、行動のとれる能力の獲得 ・自己の考えや判断を要領よくまとめ、それを言語化して説明できるスキルの養成 ・「学ぶ習慣」と「社会の出来事に関心を持つ姿勢」の涵養 ・教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する	○		○			◎		
26USMB1207	運動器の解剖と機能	1	体を構成する運動器の機能と役割を知ることにより、スポーツパフォーマンスの向上や、健康の保持増進に役立つ知識を得ることを目的とする。	体の構造に関する基本名称を学ぶことで、コーチ、トレーナーおよび医師が共通の言語でコミュニケーションをとることのできる環境構築を目標とする。	◎	○				○		
26USMB2208	スポーツトレーニングの科学	2	トレーニング科学の基礎理解として、人間の身体の適応能力についての基礎知識を養うとともに、目的とする身体機能を高めるための具体的な方法を学び、科学的な身体トレーニングについての知識を深める。一つは、スポーツパフォーマンスを高めるための科学的研究成果と高度な実戦経験に基づく種々のトレーニング理論を理解することを通し、各種トレーニングや競技特性に関する理解を深めることである。一方で、健康・体力づくりのための適切な運動プログラムを構成する知識を深めることと共に、身体運動を生活に取り入れる能力を養い、健康を保持・増進していくための適切なトレーニング方法を身につける。これらの各種トレーニングに対する考え方や方法を学び、基本的なトレーニング計画の立案ができることを目指す。	トレーニングによる人間の身体の適応能力についての理解を深める。特に、競技者としての活動に役立たせることができるまで、また、健康・体力の維持増進に役立たせることができるまでの理解を深めることを目指す。さらに、指導者の立場でトレーニングの現場での合理的かつ総合的なトレーニング計画の立案、トレーニングの実際を分析・評価する能力を身につけ、課題を見出し、多種多様な課題に対しての創意工夫を試みることができるための資質の向上を目指す。	○	◎		○		○		
26USMB1209	救 急 処 置 演 習	1	日常生活に比べてスポーツ活動時に傷病発生のリスクは高くなる。緊急時に必要な救助や処置ができるように救急処置の知識と技術を身につける。本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	救急処置、応急処置に必要な知識の習得をする。レポートにて知識の整理を行う。実習にて心肺蘇生法、止血、固定等を行う。実習試験にて知識の習得の確認を行う。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	◎			○			○
26USMB2210	バイオメカニクス	2	バイオメカニクス（生体力学）の学修によって、身体運動の運動成果（パフォーマンス）がおよそ物理学、解剖学および生理学が示す原理に従っていることを理解することを目的とする。	スポーツにおけるパフォーマンスを向上させるために、力学的にどのような要因を改善することが必要なのか、思考できることを目標とする。受講生の運動・スポーツの「動きをみる目」が変わり、スポーツ指導の現場で活かしていけることを期待する。	◎	○		○		○		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目） ◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ／ ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1．多様化・複雑化する社会を理解する力	2．“生きること”につながる専門性	3．自他を尊重する姿勢	4．失敗を恐れず挑戦する姿勢	5．逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6．論理的に考え伝える力	7．新たな価値を創造する力	8．多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
					1	2	3	4	5	6	7	8
26USMB2211	学　校　保　健	2	本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。学校における保健教育・保健管理を充実させるとともに、併せて体育実技を通して子ども達に健康の保持増進並びに学校安全に関連する実践力を身につけさせるために必要な専門的知識および技能を修得することを目的とする。	学生は教員の立場で現代の子どもたちを取り巻く健康問題に目を向け、学校における保健活動、すなわち「保健教育」と「保健管理」の内容を理解しなければならない。また、「保健教育」では、効果的な保健学習や保健指導法についての知識や考え方を身につける。さらに、学校が家庭や地域社会とどのような連携を保ちながら子どもたちの安全を確保すべきかも理解しなければならない。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎	○	○					○
26USMB3212	公　衆　衛　生　学	3	公衆衛生学は「人間集団を種々の疾病から守り、健康の維持・増進を図り、その精神的肉体的能力を充分に発揮できるような環境にすること」を目的とした学問である。公衆衛生に関する広範囲に亘る事項について解説し、集団の健康を維持するための基本的知識や考え方を修得することを目的とする。 また、本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	保健衛生や環境問題について幅広く知識を身につけて、国民の健康維持・増進のために適切な判断力のもとに指導できる基本的な力を養うこと。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎	○			○	○		
26USMB3213	発育発達・老化論	3	科目の目的は、乳幼児期から高齢期に至るからだの発育発達と老化の過程を理解し、体育・スポーツの指導者として個々の状態に相応しい運動プログラムが提供できる能力を身につけさせることである。	学生には、この授業を通じて子どもが誕生し、老いていくまでのからだの発育発達と老化についての理解を深めてもらいたい。そして発育期の運動・スポーツの関わりが、子どもたちの健康・体力にどのように影響するかについて、科学的な根拠をもって説明できる能力を身につける。	◎	○	○				○	
26USMB2214	スポーツ指導論	2	近年日本では多くのスポーツ種目が老若男女問わず盛んに行われるようになった。見るスポーツから実践し楽しむスポーツに形態が変化し、スポーツの役割は社会的にもまた、個人の健康の維持・増進に欠かせない。そのスポーツ指導について正しい知識と効果的な指導法を理解することを主な目的とする。	スポーツ指導者に求められる役割を理解する。 ＜知識・理解＞ スポーツ指導における世代間伝達 スポーツ指導者の役割 ＜技能＞ コミュニケーションスキル モチベーションコントロール ＜態度・指向性＞ プレーヤーズセンタード スポーツ指導者の倫理 自己研鑽 ＜総合的な学習経験と創造的思考力＞ 学習した一般的内容を、自分の専門とするスポーツ種目の指導実践に応用する能力	○	◎				○		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目） ◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ／ ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1．多様化・複雑化する社会を理解する力	2．“生きること”につながる専門性	3．自他を尊重する姿勢	4．失敗を恐れず挑戦する姿勢	5．逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6．論理的に考え伝える力	7．新たな価値を創造する力	8．多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
					1	2	3	4	5	6	7	8
26USMB2215	スポーツ社会学	2	本講義は次の目的のために開講する。 現代社会におけるスポーツの役割・機能、社会的価値、あるいはスポーツの問題点などの分析を通して、スポーツ・体育の指導者として求められる深い知識を得る。 知識をもとに、自分で問題を設定し、分析・解釈し、考え抜くという技術を得る。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	さまざまな時代や社会におけるスポーツの状況および歴史的変遷の過程、変化の理由などについての基本的な知識を習得する。その学習をとおして、社会の変化とスポーツの変化とを相関的に見る視点を養うと同時に、現代のスポーツに関わる諸問題について、歴史的な視点から考察することができるようにする。そして、現代のスポーツにおける課題や問題点、さらには今後のスポーツのあるべき姿についての自らの考えを持てるようにする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高校教科内容および教材に関連づけて主体的に探究すること。	○	○				◎		
26USMB2216	スポーツ行政・法規	2	わが国のスポーツに関する行政組織については、スポーツ基本法によりスポーツ振興の基本的方針が示されており、この目的を実現するために種々様々なスポーツ政策が具体的に実施されている。そこで、スポーツ行政の概念および現状等について理解を深めるとともに、体育・スポーツの実施に際し起こりうるであろう、体育・スポーツ事故に関わる法的責任および安全管理について理解を深めることをねらいとする。	科目修得時には、「日本のスポーツ行政組織」「スポーツ事故に関わる法的責任および安全管理」などについて、論理的説明が可能となることを目標とする。	◎	○						
26USMB2217	スポーツ経営管理学	2	現代のスポーツにおける環境は、地域のスポーツをはじめとし非常に多様化された組織の集まりとなっている。将来、スポーツ指導者という立場でその多様化されたスポーツ現場に対応しうる能力の一つとして、経営学的なものの考え方をもてるようにすることがねらいである。 また、本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	科目修得時には、スポーツ経営について論理的説明が可能となるよう、スポーツ経営の基礎を身につけることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○					◎		○
26USMB2218	体力の測定評価演習	2	体力の構造や各体力要素の測定方法の基本について理解し、実際に測定ができる能力を涵養する。また、得られた測定結果を適切に評価し、それに基づいた運動処方やスポーツ指導ができる能力を身につける。	①形態測定の原理や方法を理解し、実際の測定ができる。 ②有酸素性および無酸素性能力の指標と測定方法を理解し、実践できる。 ③新体力テストと体力要素との関わりを理解し、実際に測定や評価ができる。 ④基礎統計を理解してデータを評価し、それに基づいた運動指導を行うことができる。		◎			○			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目） ◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ／ ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1．多様化・複雑化する社会を理解する力	2．“生きること”につながる専門性	3．自他を尊重する姿勢	4．失敗を恐れず挑戦する姿勢	5．逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6．論理的に考え伝える力	7．新たな価値を創造する力	8．多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
					1	2	3	4	5	6	7	8
26USMB3219	コーチング論	3	競技者を育成する高度な知識と効果的、計画的な指導法を学習する。また、継続的にスポーツを行う上で、勝利を目指すこと、今以上の技能の水準や記録に挑戦させることは当然ではあるが、大会で勝つことのみを重視し過重な練習を強いることがないようにすることと、競技者としての健全な心と身体を培い、人間性を育むためのバランスのとれたマネジメントと指導ができるようにする。	適切な指導体系、コミュニケーション能力の獲得などにより、競技者の意欲や自主的、自発的な活動を促すとともに、心理面についての科学的知見、言葉の効果と影響を十分に理解し、現場におけるコーチとしてスポーツ場面での問題解決能力と指導法を身につけることを目標とする。	○	◎	○					
26USMB3220	健康・スポーツカウンセリング	3	人間の家庭・学校、社会的側面から、多様な性格、行動パターンについて理解させ、豊かな人格をつくり上げていく過程を系統的に学習する。	心の健康について理解し自己コントロール能力を修得する。		◎	○		○			
26USMB3221	生活習慣病論	3	病気、健康、体力の概念から健康づくりにおける運動の役割を理解する。生活習慣病の予防や、高齢化社会における健康管理など健康と運動を結びつけその効果を理解する。さらに安全に運動を行うためのメディカルチェックも学ぶ。	病気、健康、体力の概念から健康づくりにおける運動の意義を理解する。生活習慣病の予防や、高齢化社会における健康管理など健康と運動を結びつけその効果を理解する。また指導者として、安全に運動を行うためのメディカルチェックも学ぶ。健康について病気、健康、体力の各面から、健康を成立させる因子、阻害する因子を理解する。メタボリック症候群などの生活習慣病を具体的に学ぶ。さらに、健康の維持・増進に必要な方法について健康と運動の関係を中心に具体的に学ぶ。	◎	○			○			
26USMB2222	運動処方	2	現代生活の利便性により身体活動量の低下が健康問題に大きな影響を与えるようになった。そこで年齢や性差を理解した上で、多くの対象者の健康の保持・増進、体力向上のための運動処方プログラムが立案できる知識を学習する。	スポーツマンの体力向上や健康の維持・増進のために実践するトレーニングや身体活動は、年齢、性差、運動経験、体力レベルの違いにより、その処方の内容を考慮しなければならない。そこで各種トレーニングや身体活動を理解し適切な運動処方がプログラムできる知識と能力を習得することを目標とする。	○	◎			○			○
26USMB3223	フィットネス指導法	3	個々人の心身の状態に応じた、安全で効果的な運動について理解し、自ら見本を示せる実技能力と個人および集団に対する運動指導能力を身につける。また、運動の継続を支援するコミュニケーション能力の獲得を目指す。	運動指導に必要となる解剖学的知識、健康づくりを目的とした運動指導に関する方法論、運動指導に必要とされるコミュニケーションスキル、および運動継続を支援する動機づけスキルの修得を目標とする。		◎			○			○
26USMB3224	介護法・介護予防演習	3	日本では現在少子高齢化が進み、介護の必要性はますます高まっている。介護の知識は将来役立つ知識であり、家族のためにもなる。 介護予防の考え方、介護方法、障害を持っている人の機能回復を考慮した介護について理解を深める。 介護の対象者は高齢者、脳血管障害、下肢の骨折とし、リハビリテーション、体力測定、評価、運動、介護の実際について理解する。	介護の対象者は高齢者、脳血管障害、下肢の骨折とし、リハビリテーション、体力測定、評価、運動、介護の実際について理解する。	○	◎	○		○			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目） ◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ／ ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1．多様化・複雑化する社会を理解する力	2．“生きること”につながる専門性	3．自他を尊重する姿勢	4．失敗を恐れず挑戦する姿勢	5．逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6．論理的に考え伝える力	7．新たな価値を創造する力	8．多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
					1	2	3	4	5	6	7	8
26USMB4225	運動療法演習	4	メディカルチェック、健康診断結果、生活習慣病患者を学び、運動プログラムの作成と管理を学ぶ。運動負荷方法を学ぶ。	メディカルチェック、健康診断結果、生活習慣病患者を学びメタボ健診などができるようになる。運動プログラムの作成と管理を学び、運動負荷方法を学んで運動指導のための基礎知識を得る。心電図の記録法、血圧、脈拍の測定、方法、意義を理解し、運動指導の意義を理解する。メディカルチェックや健康診断結果の解釈、服薬患者の運動プログラム作成上の注意点を理解する。		◎	○		○			
26USMB4226	健康行動科学・演習	4	健康を行動の側面から理解し、人の健康に関する行動の変容と維持について、筋道を通して考える知識を身につける。また、望ましい健康行動を支援するコミュニケーション能力の獲得を目指す。	健康行動の変容と維持に関する行動科学の理論・モデルを理解し、その理論・モデルを応用した健康行動変容プログラムの作成方法の修得を目標とする。		◎	○	○	○			
26USMB4227	健康・スポーツ実践実習	4	指導現場における健康・体力づくりやスポーツの指導は単に技術指導だけでなく、諸問題が伴うものである。学内では解決できない実践的な学習課題を社会に出て実習し、指導現場の実情を把握すること、問題解決の実践力を養うことを目的とする。	少子・超高齢社会を健康で活力あるものとしていくためには、単に病気の早期発見や治療にとどまるのでなく、健康を増進し、発病を予防する「一次予防」を重視すること、生活の質を高めることにより、実り豊かで満足できる生涯づくりを目指す人々を多くすることが重要である。適切な運動プログラムを構成する能力と自ら見本を示せる実演能力を併せ持った健康運動指導者をひとりでも多く輩出する。		○			◎			◎
26USMB2228	レクリエーション論	2	指導者を志すわれわれにとって必要なレクリエーションに関連する原理、心理、運動論、指導論、組織論、企画論、グループワーク論等の基礎理論を学習する。	コミュニケーション・ワークの援助を中心としたレクリエーション指導ができるよう、科目目的に記載したレクリエーションに関する理論の基礎を理解する。		◎				○	○	
26USMB3229	レクリエーション指導法演習	3	参加者が気持ちよく参加できるよう支援者としての対応の仕方や表現力を身につけるため、コミュニケーション・ワークの技法を学ぶ。	参加者の意欲を引き出し、「できる」「続けたい」「楽しい」という気持ちを呼び起こす方法を学ぶ。また、活動の内容を理解し、楽しく技術提供（指導）ができるよう学習する。		◎	○					○
26USMB3230	レクリエーション指導法実習	3	多様なレクリエーション活動・種目があることを理解し、他人に指導できるよう学習する。	活動のねらい・ルールを理解し、技術を身につける。それと同時に、活動・種目の内容を理解し、提供する（指導する）ことができるよう学習する。		◎					○	○
26USMB3231	障がい者スポーツ論Ⅰ	3	障がい者にスポーツを指導する場合には、障害についての基礎知識を持ち、なおかつスポーツ指導についての知識と技能を身につける必要がある。この授業では障がい者のスポーツ振興に必要な基本的内容を理解し、身近な障がい者のスポーツ活動を支援できる能力を身につけることを目的とする。	障害についての基本的な知識を身につけることができる。 障がい者のスポーツの捉え方、歴史、組織、競技・種目、ルール等を理解することができる。 障がい者の生活、障がい者のスポーツ活動を通して、社会のあり方について考えることができる。 障がい者に対してスポーツやレクリエーションの指導を行うための基本的な知識を身につけることができる。	◎	○	○					

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目） ◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ／ ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1．多様化・複雑化する社会を理解する力	2．“生きること”につながる専門性	3．自他を尊重する姿勢	4．失敗を恐れず挑戦する姿勢	5．逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6．論理的に考え伝える力	7．新たな価値を創造する力	8．多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
					1	2	3	4	5	6	7	8
26USMB4232	障がい者スポーツ論Ⅱ	4	障がい者にスポーツを指導する場合には、障害についての基礎知識を持ち、なおかつスポーツ指導についての知識と技能を身につける必要がある。この授業では各種障害を理解すること、また、障がい者へのスポーツの指導法を理解することを目的とする。	各種障害についての知識を身につけることができる。	○	◎					○	
26USMB4233	障がい者スポーツ指導法	4	障がい者にスポーツを指導する場合には、障害についての基礎知識を持ち、なおかつスポーツ指導についての知識と技能を身につける必要がある。この授業では障がい者が日頃親しんでいるスポーツ・レクリエーションを実践し、その指導の要点を理解することを目的とする。	車椅子バスケットボールなど、障がい者の親しんでいるスポーツのルールや指導の留意点を理解することができる。 障がい者に対してスポーツやレクリエーションの指導を行うための基本的な知識を身につけることができる。 スポーツ指導における「工夫すること」の重要性を考えることができる。		◎			○		○	
26USMB1234	スイミング	1	スイミングでは、基礎の泳法を修得することで、記録の向上や競争の楽しさを味わい効率的な泳ぎを身につけられるようにする。さらに授業実践を通じて安全管理についても学習することを目的とする。 本科目は、中高教科保健体育におけるスイミング分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	スイミングでは、クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの4泳法の基礎技術と各泳法のスタート、ターンを修得し、100m個人メドレーを完泳することを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎		○	○			
26USMB1235	トラックアンドフィールド	1	受講生が、記録測定の正しい方法と実技中の安全対策を学修するとともに、技能向上に積極的に取り組み、記録挑戦や競争への楽しさや喜びを体感することを期待する。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	本授業の到達目標は以下の３点とする。 ①受講生自身が教育現場で見本をみせられるよう、各種目の基本的および効率の良い動きを身につけることができるようにする。 ②陸上競技のルールやマナーを理解し記録測定を正確に実施できるようにする。 ③陸上競技各種目の技術の名称や特有の動きのポイント、体力の高め方、運動観察の方法を理解するとともに、安全性に配慮できるようにする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎		○	○			
26USMB1236	体操	1	体操は徒手体操をはじめ体つくりや動きつくりの基本を通して自己の健康・体力を維持増進しようとする運動である。また、学習指導要領の体ほぐしの運動と体の動きを高める運動では、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めることなど、種々のスポーツにおいて欠かすことができない動きの習得を目指し、授業では身体の基本的操作と創作能力や実践能力を養う。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	指導者として師範できるストレッチ、ラジオ体操第一および第二、異操作等を習得する。また、体つくり運動で実施される種々の動きを実践し習得する。獲得した知識・技能・態度を、指導者として生徒の健康・維持増進に貢献できる資質を身につけることが目標である。 教職課程履修学生は、学修内容を該当の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎		○	○			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）							
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ／ ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1．多様化・複雑化する社会を理解する力	2．“生きること”につながる専門性	3．自他を尊重する姿勢	4．失敗を恐れず挑戦する姿勢	5．逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6．論理的に考え伝える力	7．新たな価値を創造する力	8．多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
					1	2	3	4	5	6	7	8
26USMB1237	器　械　運　動	1	１．学校体育で取り扱われる器械運動領域について理解させる。 ２．学習指導要領で取り上げられている技を習得させる。 ３．運動観察力を高め、生徒の運動を評価できる能力を身につけさせる。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。また、学習指導要領に示されている「技」を取り上げ、その演技ができるようになる。また、段階指導法を学ぶことで、器械運動の練習方法の原則についても理解し、基本的な器械運動の「技」の指導が行えるようになる。授業内で成功体験をし、達成感を味わうことでスポーツの楽しさや価値を体感する。		◎		○	○			
26USMB1238	バ レ ー ボ ー ル	1	６人制バレーボール、９人制バレーボール、ソフトバレーボール、ビーチバレーボールとして多くの国民に親しまれているバレーボール。将来指導者としての基本技能習得とゲームづくりについて学ぶ。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	まず、個人的な基本的技能については、自ら、指導者として見本が見せることのできる能力を最低限として習得する。また、ゲームを構成させるための組み立てや応用技術の習得、審判を含め競技会の運営能力を習得する。さらに、教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎		○	○			
26USMB1239	バスケットボール	1	バスケットボールは、現在我が国で最も盛んなスポーツの一つであり、中学校および高等学校の保健体育科の中にゴール型球技として含まれる代表的なスポーツ種目である。この科目は、バスケットボールの基本的な技術・戦術の習得はもちろん、初心者に対する指導法、ゲームの審判法および運営法などを習得することを主な目的としている。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	＜知識・理解＞ バスケットボールの基礎知識 ルールと審判法の理解 初心者指導における留意点の理解 ゴール型球技における攻撃の原則の理解 ＜技能＞ バスケットボールの基本技術・基本戦術 審判法とゲームの運営法 初心者への指導法 ＜態度・志向性＞ チームワーク 積極的な「コツ」の受け渡し ＜総合的な学習経験と創造的思考力＞ グループの技術的課題や戦術的課題を、熟練者がリーダーとなりチームで解決する能力 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎		○	○			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目） ◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ／ ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1．多様化・複雑化する社会を理解する力	2．“生きること”につながる専門性	3．自他を尊重する姿勢	4．失敗を恐れず挑戦する姿勢	5．逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6．論理的に考え伝える力	7．新たな価値を創造する力	8．多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
					1	2	3	4	5	6	7	8
26USMB2240	ハンドボール	2	ハンドボールにおける指導法や審判法を習得することを目的とする。 また、本科目は、中高教科保健体育におけるハンドボール分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	「技術・戦術理論」 ボールを使ったコーディネーションスキル 様々なパス・シュートの技術（主にジャンプシュート） １対１の攻防スキル 攻撃におけるグループ戦術およびチーム戦術 防御におけるグループ戦術およびチーム戦術 「指導理論」 ボールゲームにおけるウォーミングアップの方法論 ゲームを中心とした、減算式指導法の考え方 ハンドボールの技術指導の考え方、コツ 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎		○	○			
26USMB3241	柔道	3	本科目は、中高教科保健体育における柔道分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	科目修得時には、受身、投技（手技・腰技・足技）、固め技（抑え方・逃げ方）が身につくことを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎		○	○			
26USMB2242	剣道	2	本科目は、中高教科保健体育における剣道分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	日本独自の伝統文化である剣道を正しくとらえ、相手の人格を尊重し、心豊かな人間の育成のために礼法を重んじ、基本動作を習得させ、対人的技能の向上を図ると共に、互いが信頼できる人間関係を築かせるとともに、剣道を通して明朗で心豊かな人間の育成を目標とする。 また、教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎		○	○			
26USMB1243	ダンスⅠ	1	学習過程では個性の育成や仲間との活動を通して仲間とのコミュニケーション能力を高め、伝承されてきた踊りやリズムにのって全身で踊る楽しさを通し自己表現法の技能の獲得を目指す。 また、本科目は、中高教科保健体育におけるダンス分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	各自が「現代的リズムのダンス」を自分の言葉で説明できるようにする。 「踊る喜び」を自分のからだで他に伝えることができるようにする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎		○	○			
26USMB1244	ダンスⅡ	1	ダンスは身体的、情緒的、知的に自己表現ができる身体によるボディランゲージである。そのため個の創造的な能力や仲間とのパーソナリティ開発を深めその教育的価値についても理解する。 また、本科目は、中高教科保健体育におけるダンス分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	テーマ（課題）からイメージする動きを身体で表現する能力（スキルや表現力）等を個人レベルで獲得することを目指す。グループワークでは、作品を作り上げていく活動の中で、自己能力の思考開示や他者への理解を深め、互いの能力を認め合い、問題解決まで協調・協力し努力していく態度を養う。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎		○	○			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目） ◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ／ ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1．多様化・複雑化する社会を理解する力	2．“生きること”につながる専門性	3．自他を尊重する姿勢	4．失敗を恐れず挑戦する姿勢	5．逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6．論理的に考え伝える力	7．新たな価値を創造する力	8．多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
					1	2	3	4	5	6	7	8
26USMB2245	ダンスⅢ	2	コンテンポラリーダンスは多様な音楽を使い、独創性の高いジャンルである。個人技能の獲得と身体のコミュニケーション能力を高める。 本科目は、中高教科保健体育におけるダンス分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	ダンス技術の向上と作品創作の為の基礎的知識を学び取る。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎		○	○			
26USMB4246	卓球	4	生涯スポーツのひとつとして国民に広く親しまれている卓球の特性と魅力にふれ、生涯にわたって、地域や職域等において家族や友人などとともに卓球を楽しむことのできる基礎的な技能や初歩的なゲームのできる能力の習得をねらいとする。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	卓球の基礎的技術を習得し、楽しく試合ができることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎		○	○			
26USMB4247	バドミントン	4	基本的な練習を通して、個人の技能を高め、仲間と協力して授業を形づくっていくことで、自ら主体的に行動し、そして協調性豊かな学生と成長していくことを期待したい。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	バドミントンの基礎的技術を習得すると共に、楽しくゲームができることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎		○	○			
26USMB2248	保健体育科指導法（体つくり運動・器械運動）	2	保健体育授業において「体つくり運動・器械運動」領域を指導するための資質・能力を修得することを目的とする。	①「体つくり運動・器械運動」領域の特徴に応じた単元計画・指導案の作成方法を理解し、立案することができる。 ②模擬授業を通して「体つくり運動・器械運動」領域特有の実践的指導力（課題の提示・示範・助言・段階的指導・教えあいの指導など）を高める。 ③「体つくり運動・器械運動」領域における安全対策に関する理解を深め、適切な授業環境を作り出すことができる。		◎	○			○		
26USMB2249	保健体育科指導法（陸上競技・水泳）	2	保健体育授業において「陸上競技・水泳」領域を指導するための資質・能力を修得することを目的とする。	①「陸上競技・水泳」領域の特徴に応じた単元計画・指導案の作成方法を理解し、立案することができる。 ②模擬授業を通して「陸上競技・水泳」領域特有の実践的指導力（課題の提示・示範・助言・段階的指導・教えあいの指導など）を高める。 ③「陸上競技・水泳」領域における安全対策に関する理解を深め、適切な授業環境を作り出すことができる。		◎	○			○		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）							
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ／ ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1．多様化・複雑化する社会を理解する力	2．“生きること”につながる専門性	3．自他を尊重する姿勢	4．失敗を恐れず挑戦する姿勢	5．逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6．論理的に考え伝える力	7．新たな価値を創造する力	8．多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
					1	2	3	4	5	6	7	8
26USMB2250	保健体育科指導法（球技）	2	保健体育授業において「球技」領域を指導するための資質・能力を修得することを目的とする。	①「球技」領域の特徴に応じた単元計画・指導案の作成方法を理解し、立案することができる。 ②模擬授業を通して「球技」領域特有の実践的指導力（課題の提示・示範・助言・段階的指導・教えあいの指導など）を高める。 ③「球技」領域における安全対策に関する理解を深め、適切な授業環境を作り出すことができる。		◎	○			○		
26USMB3251	保健体育科指導法（武道・ダンス）	3	保健体育授業において「武道・ダンス」領域を指導するための資質・能力を修得することを目的とする。	①「武道・ダンス」領域の特徴に応じた単元計画・指導案の作成方法を理解し、立案することができる。 ②模擬授業を通して「武道・ダンス」領域特有の実践的指導力（課題の提示・示範・助言・段階的指導・教えあいの指導など）を高める。 ③「武道・ダンス」領域における安全対策に関する理解を深め、適切な授業環境を作り出すことができる。		◎	○			○		
26USMB1252	エアロビックダンス	1	健康・体力づくりを目的としたエアロビック運動（エアロビックダンス）について、その特徴や運動内容、実施上の環境や注意点を理解する。また、基本動作、正しい身体の使い方や振り付け方法を習得した上で、目的に応じたプログラムの作成能力と実践力、および指導力を養う。	エアロビックダンスにおける基礎的な知識を理解した上で、正しいアライメントによる安全かつ効果的な動作の技術能力を獲得する。また対象者や目的に応じたプログラムの構成や指導法をグループワークにより習得する。		◎		○	○			
26USMB3253	アクアエクササイズ	3	健康・体力づくりを目的としたアクアエクササイズについて、その特徴や運動内容、実施上の環境や注意点を理解する。また、基本動作、正しい身体の使い方や振り付け方法を習得した上で、目的に応じたプログラムの作成能力と実践力、および指導力を養う。	アクアエクササイズにおける基礎的な知識を理解した上で、正しいアライメントによる安全かつ効果的な動作の技術能力を獲得する。また対象者や目的に応じたプログラムの構成や指導法をグループワークにより習得する。		◎		○	○			
26USMB2254	マリンスポーツ実習	2	アウトドアスポーツのひとつとして、マリンスポーツ実習は自然とのかかわりの中で自然に対する知識や実習の計画方法、事故防止策について学び、指導者として必要な身体活動・安全管理の基礎的な知識や技術を学習する。	自然の中で行われる実習の計画方法や健康管理を理解し、安全に実習することができる。				◎	◎			○
26USMB2255	キャンプ実習	2	キャンプの幅広い教育効果を理解するよう体験学習し、指導的立場からの企画立案を実習する。本実習の目的は、大自然の中での共同生活を通して、野外での諸活動を修得することである。	①自然の中で集団的、自律的生活をすることによって自己を見つめ、真の協力・共同の生活を体験する。 ②キャンプ生活の技術を学びつつ、諸活動（アクティビティ）を通して自分の体力や精神力を鍛える。 ③将来、キャンプを指導する立場に置かれたとき、計画立案することができ、運営指導ができる。				◎	◎			○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）							
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ／ ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1．多様化・複雑化する社会を理解する力	2．“生きること”につながる専門性	3．自他を尊重する姿勢	4．失敗を恐れず挑戦する姿勢	5．逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6．論理的に考え伝える力	7．新たな価値を創造する力	8．多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
					1	2	3	4	5	6	7	8
26USMB2256	スノースポーツ実習	2	1．スポーツ指導者として必要なスキーの運動特性、技術、指導法を修得し、生涯スポーツとしてのスポーツの在り方を学習する。 2．自然に対する知識や事故の防止策等について学びながら、指導者として必要な計画立案・運営指導の能力を身につける。 3．団体生活・団体行動を通じて、その態度を養う。	①スポーツ指導者として必要なスキーの運動特性、技術、指導法の修得。 ②生涯スポーツとしてのスキーに関する知識の修得。 ③自然に対する知識やスキー・スノーボード事故の防止策の修得。 ④スキー実習の実施に必要な計画立案・運営指導能力の修得。 ⑤団体生活・団体行動を通じて、規律ある態度および行動規範の修得。				◎	◎			○
26USMB3257	健康・スポーツ科学の統計学演習	3	健康・スポーツ科学に関する卒業論文の作成のために、実験や調査で得られるデータを正しく分析・解釈できる実践的な能力を身につける。また、データが語りかけているものを感じとる能力の洗練を目指す。	統計学的基礎知識および健康・スポーツ分野における統計学の活用方法の理解、エクセル統計の基本操作およびアンケート調査のデータ処理方法の習得を目標とする。	◎	○				○		
26USMB3258	卒　業　研　究　Ⅰ	3	健康・スポーツ科学に関わる諸科学の研究領域と研究方法について、体系的な認識を持ち、そのことを通した問題を設定し、その解決のための方法論を身につけることを目的とする。	自分の所属するゼミにおいて、健康・スポーツ科学に関わる問題発見、問題提起、問題解決の方法を学び、「卒業研究Ⅱ」への導入を目標とする。具体的なテーマ、研究方法等について絞り込むことができる。				○		◎	○	
26USMB4259	卒　業　研　究　Ⅱ	4	3年次に学んだ健康・スポーツ科学の専門領域にふさわしい手法を使って、卒業論文、実践研究、教材研究から、それぞれの完成形である論文発表、研究発表に導く能力を身につけることを目的とする。	テーマに基づく研究を進め、研究論文、実践研究、教材研究という形式で成果物の提出を行い、研究発表会にて発表することができる。				○		◎	○	